
開 会 挨拶

立命館大学 学長 仲谷 善雄

桃の節句を明日に控えた本日、まさに春の日差しの中で大学コンソーシアム京都主催のFDフォーラムに、ようこそおこしいただきました。心から感謝を申し上げます。私は、公益財団法人大学コンソーシアム京都の理事長も拝命しておりますが、本日は会場校の代表といたしまして、一言ごあいさつを申し上げたいと存じます。

大学コンソーシアム京都主催のFDフォーラムは、高等教育の質向上と京都からのFD活動の情報発信を目的とし、1995年より開催し、今回で24回目となります。今回、立命館大学がFDフォーラムの会場校となり、ここ衣笠キャンパスにて、全国から大勢の方々をお迎えできることを大変光栄に存じます。ご参加に感謝申し上げますとともに、このフォーラムの企画運営に多大なるご協力を頂きました、FDフォーラム企画検討委員会の先生方にも厚く御礼を申し上げます。

今回のテーマは、「大学におけるダイバーシティ」です。立命館大学は、学園ビジョン R2030「挑戦をもっと自由に～Challenge your mind Change our Future」を策定いたしました。先を見通すことが困難な時代であるからこそ挑戦していくのだという、勇気と決断を宣言したものです。現代は、多様性の時代であると言われていています。しかし、

一方では、他者の排除や対立が進行しています。また、人工知能や生命科学などの大きな進展に伴い、これまでの価値観が揺らぎ、不安を感じる人々も少なくはありません。このような時代には他者に尊敬の念を持ち、他者との異なりを理解して、お互いに認め合い、協力しながら共通の課題に取り組む姿勢が求められます。その基礎となるのは、世界の中から新たな意味を見出せる感性と、それを支える豊かな感動体験の蓄積だと思います。喜び、感動する体験、そして、その経験から新たな可能性を見出し、意味付けし、出会いの場としてデザインする、大学はそのような場を研究や教育を通じて提供し続ける必要があります。新しい形の知を探り、つくり上げ、そして社会に届け、後世に伝え、人類に貢献する、立命館大学はそのような存在でありたいと考えております。

本日のシンポジウムは以学館、明日の分科会は敬学館での開催となりますが、2日間の日程の中で活発な議論を展開していただき、日本の高等教育がいつそう花開ききっかけとしていただきますよう祈念いたしまして、私のごあいさつとさせていただきます。本日は、ようこそおいでくださいました。ありがとうございます。

FDフォーラム企画検討委員長挨拶

立命館大学 教育開発推進機構 教授 鳥居 朋子

みなさま、こんにちは。ようこそ、お越しくださいました。

私は、本FDフォーラムの企画検討委員会の委員長を仰せつかっております。僭越ですが、主催者を代表いたしまして、ひとことご挨拶を申し上げます。

ここ、立命館大学衣笠キャンパスは、金閣寺、龍安寺など多くの文化遺産に囲まれております。本日は、年度末のお忙しい時期に、このように全国から大勢の方々にお越しいただき、たいへん光栄に存じます。ご参加に感謝申し上げますとともに、このフォーラムの企画運営に多大なるご協力をいただきました、シンポジウムおよび分科会の登壇者のみなさま、そしてFDフォーラム企画検討委員会の先生方にも厚く御礼を申し上げます。

大学コンソーシアム京都主催のFDフォーラムは、高等教育の質向上と、京都からのFD活動の情報発信を目的に1995年より開催し、今年で24回目となります。今回は、学生、教職員、産業界や地域の人びと等の立場を越えて、これからの大学の挑戦について未来志向で議論する第一歩にするべく、統一テーマを「大学におけるダイバーシティ」に設定いたしました。

今日、「人生100年時代」の到来が唱えられ、「学び直し」という文脈で社会人が注目を浴びています。後ほど、登壇者から「社会人とは誰なのか」

という基本的な論点の整理がなされる予定ですが、各大学におかれましても、多様で柔軟な教育プログラムの編成や多様な教員の配置などの検討や実践が進められているところかと存じます。18歳人口の減少を背景に、とかくこれまでの政策的議論においては、留学生とともに、学生数を「補填」する周縁的存在と見なされてきた社会人ではありますが、そうしたいわゆる定員充足の発想や視点を超えて、同じキャンパスに集う非伝統的な学生への学習支援の充実化や、多様性に価値を置くカリキュラムの開発が要請されていると言えます。大学において多様性が求められている現在、リカレント教育の充実、教育の質の保証と情報公表、地域との連携など、取り組むべき課題は山積みだと考えます。

今回のフォーラムでは、「大学におけるダイバーシティ」のテーマに多角的に迫るため、本日は2つのシンポジウム、明日には11の分科会を企画いたしました。本日のシンポジウムは以学館、明日の分科会は敬学館での開催となります。花の季節は梅から桃へ移り、また桜の開花も楽しみな頃となりましたが、2日間の日程の中でぜひ活発な議論を展開いただき、日本の高等教育が一層花咲きっかけとしていただくよう祈念いたしております。

本日は明日、どうぞよろしく願いいたします。